

高樹齡樹の樹勢強化による生産性向上技術の確立

要約

生産性の低下した老木樹でも樹勢強化を図ることにより、生産性は対象区と同等であった。また、樹勢が向上するとともに、結果枝密度を高めることが可能となった。

○ 展示のねらい

なしは、高樹齡化に伴って生産性が低下するため、改植が必要になるが、経営全体の生産量を数年間にわたって大きく減収してしまうため思うように進まないのが現実となっている。そこで、経営全体の生産量を落とさないように、生産性の低下した樹での生産性を高める技術を実証する。

【展示内容及び試験区概要】

	供試区	対照区
着果数	11000果/10a	10000果/10a
換算収量	3200kg/10a	2800kg/10a
平均果重	290g	280g
28玉以上	65%	55%

	供試区	対照区
予備枝配置本数	2.5~3.0本/m ²	1.0~1.5本/m ²
結果枝配置本数	2.0~2.5本/m ²	1.0~1.5本/m ²
芽かき夏季せん定	実施しない	必要に応じて実施

- ・ 幸水 40 年生樹 供試面積 20a (供試区 10a 対照区 10a) 栽植距離 7.2m×7.2m (18 本/10a)
- ・ 防除暦に基づく慣行防除、施肥量：堆きゅう肥 1000kg/10a、BB508 (15-10-8) 80kg/10a (5 月)

○ 主な成果

- (1) せん定後の結果枝数は、供試区 2.4 本/m²、対照区 1.7 本/m²、予備枝数は、供試区 3.1 本/m²、対照区 1.4 本/m²であった。
- (2) 着果数は、供試区 11 個/m²、対照区 10 個/m²であった。
- (3) 収量は、供試区 3300kg/10a、対照区 3100kg/10a と目標を上回った。
- (4) 平均果重は両処理とも 390g 程度であったが、28 玉以上発生率は対照区が高かった供試区では S 玉の発生率が低く、全体的な玉揃いは良かった。
- (5) 粗収入は、供試区で収量が多かったことから、対照区に比べて高くなった。

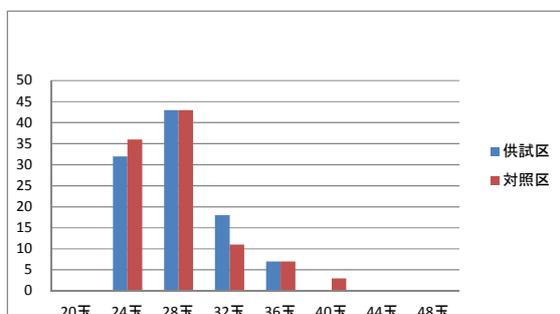
以上のことから、老木樹における生産性向上を目的として予備枝及び結果枝を多く残すことは有効であると考えられた。

① 樹体条件と結果数 (() 数字は 10a に換算) ※新梢発生数は 30cm 以上伸長した 1 年枝をカウント

	花芽数			結果枝 本数 本/樹	予備枝 本数 本/樹	着果数 果/樹	満開後100日 横径 mm	新梢発生 数※ 本/樹
	総数	長	短					
	個/樹							
供試区	936 (20216)	411	525	113 (2441)	142 (3066)	509 (11041)	74.2	768 (16587)
対照区	1154 (24192)	646	332	83 (1740)	67 (1405)	477 (9999)	75.1	648 (13585)

②収穫果実と粗収入（（ ）数字は10aに換算）

	平均果重 g	28玉以上発生率 %/樹	40玉以下発生率 %/樹	収穫量 kg/樹 (3326)	粗収入 千円 (907)
供試区	391.8	75	0	154 (3326)	42 (907)
対照区	393.1	79	4	147 (3081)	40 (838)



○ 今後の方向性

結果枝の維持・更新、病害虫管理等高い栽培技術が必要なせん定方法であるため、技術レベルの高い農家にしぼって推進していく。

実施機関：河内農業振興事務所経営普及部 実施場所：宇都宮市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315